

平成28年度

学校評価(結果)

育てたい生徒像

- 1 知・徳・体の調和のとれた感性豊かで至誠の心を持つ生徒
- 2 人権を尊重し、民主的でかつ協和の精神に富んだたくましい生徒
- 3 勤労と責任を重んじ、自主的・自立的に行動できる生徒
- 4 自己のあり方や生き方について考える生徒

徳島県立小松島西高等学校勝浦校

総括評価表

重点課題 1

「わかる授業の展開と確かな学力の定着」

重点目標	自己評価			学校関係者評価 総合評価(評定)	今後の改善方策	
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評定			
(全体レベル) 基礎的・基本的な知識・技術を習得させるため、指導方法の工夫・改善を行い、生徒の学力の定着と向上を図る。 (下位組織レベル) ①基礎学力の向上 ②指導技術の向上と評価方法の工夫・改善 ③授業時間の確保	評価指標 ①-1 授業の取組に関するアンケートを実施し、生徒の自己評価 80 %以上を目標とする。 ①-2 配布物をファイルに綴じ、ロッカー・机の整理整頓をする人が 75%以上を目標とする。 ①-3 1日の自主学習時間0の人が 40 %以下を目標とする。 ②-1 教員相互の授業見学会(仮称)を学期に1回実施し、指導力の向上をはかる。 ②-2 年間学習指導計画における評価基準(評価方法)を検討し、評価方法の改善を目指す。 ③ 年間授業実施率 80 %以上を目指す。	評価指標による達成度 ①-1 各学期末に各HRにおいて、授業の取組に関するアンケートを実施した。ほとんどの質問項目で 80 %以上の評価であった。 ①-2 調査の結果、81%であった。 ①-3 調査の結果、1学期中間考査期間中 56%、2学期期末考査期間中 51%であった。 ②-1 学期に1回、授業見学会を実施した。 ②-2 年度初めに作成した年間学習指導計画に基づき授業を実施することができた。評価方法の改善については継続していく必要がある。 ③ 31HR年間授業時数 1089時間 32HR年間授業時間 1011時間	評定 A B C B B A	総合評価 評定 (所見) B 授業の取組に関するアンケートより、1学期よりも2学期の方が自己評価が高かった。授業の雰囲気に関することは 70 %台であったので、今後、改善していく指導が必要である。また、自主学習に関しては、声かけをすることで学習時間が増えた生徒もおり、勉強する大切さを粘り強く伝えていく必要がある。また、継続して1人でも学習できるしくみを考えていきたい。 生徒の基礎学力を向上させるため、授業見学会等に取り組んだが、今後とも継続した取組が必要である。	B	○学力向上委員会や担任の先生方と連携して目標の達成に向けて努力する。 ○授業見学会の実施方法を検討する。 ○学校行事を精選し、授業実施時間を確保する。
	活動計画 ①-1 月末にアンケートを実施して集計結果を各クラスに表示し、生徒の授業に対する意識や学習意欲が向上するよう情報発信を行う。 ①-2 毎時間ロッカーや机の整理整頓ができていないかチェックし、配布物はファイルに綴じさせ、自己管理をさせる。 ①-3 各教科で予習・復習を促す課題を定期的に与える。 ②-1 授業見学会の評価を先生方に伝達し、教員の指導力及び授業の質の向上につながるよう、情報発信を行う。 ②-2 各科目における評価基準を検討し、冊子等を教室等に置いて生徒へ周知を行う。 ③ 校務運営委員会において授業の実施率を報告し、教員に授業の実施状況の情報発信を行う。学校行事の見直しや振替え授業を確実に実施する。	活動計画の実施状況 ①-1 教務課が行ったアンケートから授業中の様子を推測することができた。HR担任にアンケート結果を伝え、改善を図った。 ①-2 朝・帰りのSHR時を中心に、各授業等においても機会を捉えては声かけ指導をした。 ①-3 復習をしやすいようなプリントを作成したが、教科によっては1人で学習するのは難しい場面もあった。 ②-1 授業見学会を設定したが、出張や校務の都合で、当初の目的を達成することができなかったように思われる。 ②-2 各科目のシラバスの作成について検討を行った。次年度以降、シラバスを公開できるよう準備を進めていきたい。 ③ 学期末に40分×5限を設定し、「基礎学UPプロジェクト」と称した基本的な学力を身に付けさせる取組を実施した。授業時間数は普通科目、専門科目に位置づけたので、実施時数を確保することができた。	成果と課題 ① アンケートの記載から生徒の素直な感想や意見を得ることができた。教務課として、生徒が安心して授業に取り組むことができる環境作りを行ってみたい。プリント等を整理することで自学自習をしやすい状態をつくることと、そこから自己管理する力をつけることを目的にしている。このまま継続していきたい。 ② 教員の指導力および授業の質の向上につながる取組を計画する必要がある。次年度は研究授業や公開授業を授業者以外の全ての先生方が参観できるような授業見学会が実施できれば、と思う。 ③ 生徒は「基礎学UPプロジェクト」に意欲的に取り組むことができた。わからないところを友達同士で教え合ったり、問題を次々に取り組むなど生徒には好評だったと思う。来年度も学力向上委員会が中心となり、継続して取り組みたいと思う。	学校関係者の意見 社会に出てからも学び続けることが「生きがい」や「やりがい」につながる。そのためには自学・自習の能力が必要である。また基礎学力は必要不可欠である。将来の進路を保障するためにも、学力を向上させてほしい。 先生方は、生徒それぞれに応じた授業方法をよく模索してくださっている。今後も教科を越えて見学会を実施し、生徒の学習意欲を高めてほしい。 普通科の教員が減少している。教科を越えて基礎的・基本的な学力をつけさせなければいけなくなってきたので、先生方も大変であろうと推察する。	○アンケート結果から改善点を見だし、学習環境の改善に努める。 ○教室など学習環境の美化に努める。 ○継続したシラバスに関する検討 ○基礎学UPプロジェクトの内容、実施方法について検討し、改善すべき所は改善する。	

総括評価表

重点課題 2
「豊かな人間性の育成と人権教育の推進」

重点目標	自己評価			学校関係者評価 総合評価(評定)	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	総合評価		
(全体レベル) 一人一人を大切にし、互いに思いやり尊重する態度を育てるとともに、生命や人権を大切にす意欲を培い実践力を身につける。 (下位組織レベル) ①ホームルーム活動づくり	評価指標 ①-1 人権学習ホームルーム活動満足度 85%をめざす。 ①-2 いじめ等に関するアンケートを学期に1回実施し、実態を把握し防止に努める。 ①-3 全学年で道徳教育のホームルーム活動を計画的におこなう。	評価指標による達成度 ①-1 人権学習ホームルーム学習満足度は生徒が80%、教職員が80%であり、さらなる満足度の向上へつなげたい。 ①-2 同和問題に関するアンケート中心だったので、今後いじめに関するアンケートを実施したい。 ①-3 犯罪被害者についての道徳教育のホームルーム活動を全学年で実施した。	総合評価 評定 B (所見) 人権学習ホームルーム活動は、今年度は同和問題を中心とするホームルーム活動を全学年で実施。生徒の理解度も約85%と高かった。教職員に対してもあわせて同和問題勉強会を実施したので充実度も高かった。同和問題中心の活動だったので、いじめに関するアンケートが実施できなかった。教職員の研修会も日程や内容を精選する必要がある。	B	○実施内容の工夫及び教職員対象の勉強会の実施 ○同和問題学習の充実 ○研修内容の検討
	活動計画 ②教職員研修の充実 ①-1 人権学習ホームルーム活動を行うにあたっては、人権教育課が学年に応じた資料を提示する。 ①-2 いじめなどに関するアンケートを実施し、実態把握に努め、適切な対応をおこなう。 ①-3 道徳教育のホームルーム活動を実施する際には全学年の統一の指導案を作成する。 ②-1 校外の研修会には、教職員が少なくとも年間1回以上参加するようにする。 ②-2 校内の研修会を年間2回以上実施する。 ②-3 特別支援教育の理解を深めるために、年間1回以上研修会を実施する。 ②-4 特別支援関係機関との連携・相談をはかり、ケース会議を年間2回以上実施する。	活動計画の実施状況 ①-1 今年度は同和問題中心の人権学習ホームルーム活動なので人権教育課から全学年に資料を提示した。 ①-2 同和問題に関するアンケートが中心だったので実施できていない。 ①-3 犯罪被害者に対する言動や態度について、映像資料などを利用して全学年で実施した。 ②-1 日程や内容により、全員の教職員が参加することが難しかった。 ②-2 今年度はPTA総会で生徒・保護者・教職員で同和問題に関する研修会を実施した。 ②-3 特別支援学校から講師を招き、特別支援に関する研修会を実施した。 ②-4 ケースに応じて近隣の特別支援学校と連絡を取り、相談をおこなった。またケース会議を実施した。	成果と課題 ①-1 年間を通して同和問題に取り組んだので、教職員・生徒あわせて学校全体で同和問題について学習することができた。 ①-2 来年度に入ってからいじめ問題を中心とする人権意識調査を行う予定。 ①-3 なかなか遭遇することが少ない題材について考察することができたが、次回はもっと身近な題材についてホームルーム活動を実施したい。 ②-1 教職員が充実した研修を受ける事ができる環境整備に努力が必要である。 ②-2 保護者と生徒が家庭で人権について話し合うきっかけになったので、これからも積極的に模索していきたい。 ②-3 学校の実態に応じた研修会を展開していくことが必要である。 ②-4 生徒に関する情報を教職員でいつでも共有できるように、会議の日程や内容を吟味していく必要がある。		学校関係者の意見 「いじめ」のない、誰もが安心して楽しく学べる民主的な学校づくりに努めてほしい。 また、最近は「スマホ」の普及により表には見えないトラブルが増えている。普段の生活の中での生徒の言動や、変化にいち早く気づき、良き相談者になってほしい。 今後も引き続き、自らの資質・能力を高めるための研修を実施してほしい。 また、家庭の力も大きいと思うので保護者も含めての研修会を行ったことはとても意義あることだと思う。

総括評価表

重点課題 3

「キャリア教育の推進と進路希望の実現」

重点目標	自己評価			学校関係者評価 総合評価(評定)	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	総合評価		
(全体レベル) 望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身につけさせ、主体的に進路を選択する能力と態度を育てる。 (下位組織レベル) ①組織的なキャリア教育の推進 ②企業訪問と求人開拓 ③資格取得の奨励	評価指標 ①-1 卒業時における生徒の進路決定率 90%以上をめざす。 ①-2 「勝浦塾」就業体験学習自己評価肯定率 80%以上をめざす。 ②総求人数 250人以上をめざし、60社以上企業訪問を実施する。 ③取得資格数 1年生対象に実施する刈払機取扱作業教育の資格取得率 80%以上をめざす。 2年生、3年生対象に実施する農業技術検定3級の合格率 70%以上をめざす。	評価指標による達成度 ①-1 卒業時における生徒の進路決定率 100% ①-2 「勝浦塾」就業体験自己評価肯定率 93.0% ② 総求人数 654 訪問企業数 75 ③ 刈払機取扱作業教育の資格取得率 80% (47名中 43名 合格) 農業技術検定3級の合格率 34.3% (35名中 12名 合格)	総合評価 評定 B (所見) 生徒との面談を通じて、将来の希望について把握することができたので、進路に応じた的確なアドバイスをおこなうことができた。 「勝浦塾」や進路ガイダンス等の行事を通じて進路を考える機会をもつことができた。 資格試験については、その重要性を生徒に知らせることができ、生徒一人ひとりが真剣に取り組むことができ個々の将来に向けた活動ができた。	B	○進路について考えるさせる機会を増やす。 ○「勝浦塾」への参加を呼びかけ、仕事をするという事について考えさせる。
	活動計画 ①-1 夏休み中に「勝浦塾」就業体験学習をおこない、受入事業所から評価と助言をもらう。9月に「勝浦塾」報告会を実施する。 ①-2 職業理解・職業体験のため分野別の職業ガイダンスを学期に1回実施する。3年生は講演会・職業ガイダンスを実施する。 ②-1 進路指導課・3年学年団を中心に5、6月に企業を訪問する。 ②-2 ホームルーム活動、授業等を通じての進路指導を年3回以上行う。 ③-1 関係機関と連携し、各種検定や資格を積極的に取得することができるように情報提供を行う。 ③-2 農業技術検定の合格率を向上させるための取組(補習)を実施する。	活動計画の実施状況 ①-1 「勝浦塾」については、本年度は2年生全員を対象に企業見学を実施し、企業から進路に向けた指導助言をいただいた。 ①-2 職業ガイダンス・職業体験を学期に1回実施した。職業講話・面接練習についても2、3年生が体験した。 ②-1 5、6月に管理職・進路指導課・3年生学年団が分担して企業訪問を実施して求人依頼を行った。 ②-2 各学期において進路指導についてのホームルーム活動や授業を行った。 ③-1 刈払機取扱作業教育、農業技術検定以外の検定や資格について、合格者を出すことができた。 ③-2 検定前に授業形式で、過去問題に取り組む補習を行った。	成果と課題 ①-1 会社見学を実施したことにより、仕事の内容を知ることができた。また企業の方から仕事に喜びや厳しさを教えられて勤労観が育成された。 ①-2 職業ガイダンスを実施することにより、様々な仕事を体験することができた。それにより職業について深く知ることができ、将来について考えることができた。 ②-1 生徒との面談を通じて生徒が希望する職種を把握し、それに合わせた企業訪問を計画的に実施することができた。 ②-2 進路指導の授業等を通じて、どのような高校生活を送れば良いのかと考える良い機会となった。 ③ 各種検定や資格取得について積極的に取り組むよう、各HR担任や資格担当教員から生徒に声をかけ、情報発信を行うことができた。農業技術検定の合格率を向上させる指導のあり方について、検討する必要がある。		

総括評価表

重点課題 4

「基本的生活習慣の確立と規範意識の育成」

重点目標	自己評価			学校関係者評価 総合評価(評定)	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評定 総合評価		
(全体レベル) 愛情と信頼に満ちた人間関係を構築し、社会の一員としての責任と義務を自覚させるとともに、自律心を養い規範意識を醸成する。	① 年間5回以上全校集会を実施し、頭髪・服装指導や特別指導防止に向けた生徒指導面での改善を図る。	① 本年度については、毎月はじめに全校集会を実施し、頭髪・服装・指導をならびに生活面でのアドバイスを実施した。	B (所見) 本年度から毎月月はじめに全校集会を開催し、基本的生活習慣の確立を目指した全校集会を実施した。また、本年度はクラスを中心に遅刻無断欠席に係る指導に努めた。さらに、本年度交通安全教室を2回実施した。	B	○今後も継続して毎月全校集会を実施する事で生活面での指導の向上が図られる。
	② 遅刻・無断欠席改善指導については、前年度から10%の削減を目指す。段階に応じて保護者面談等を実施する。	② 各クラスのホームルーム担任を中心に遅刻無断欠席に係る指導を行った。	B		
(下位組織レベル) ①頭髪・服装指導の徹底	③ 校内、校外における交通安全講習会を年1回以上、運転技能向上講習会を年1回以上開催する。	③ 本年度については、年間2回交通安全に係る交通講習会を実施した。	A		
②基本的生活習慣の育成 ③交通事故の防止と通学マナーの向上	活動計画 ① 各学期の節目に全校集会をおこない、HR、学年、学校全体で共通意識を持ち連携を図りながら、効率的で公平な指導をおこなう。 ②-1 朝のあいさつ運動や、日々の学校生活全般、農業教育をとおして生徒、保護者、教員間のコミュニケーションを密にし、生徒の基本的生活習慣の育成をおこなう。 ②-2 月10回以上の生徒を対象に、学校全体で遅刻改善指導を実施する。 ③-1 バス通学状況の把握と改善指導を常時行い、バス会社や地域、家庭と連携した指導を実施する。 ③-2 駐輪場の整理・整頓、年度当初の車体検査、校内外の交通安全教室を実施し、交通規範意識の向上を図る。 ③-3 全てのバイク通学生徒は年1回以上2輪車実技安全講習を実施し、運転技能向上と、交通安全の規範意識を高める。	活動計画の実施状況 ① 本年度については、毎月全校集会を実施し、学年、学校全体で共通意識を持ち連携を図りながら、効率的で公平な指導をおこなう。 ②-1 本年度、朝のあいさつ運動や、日々の学校生活全般、農業教育をとおして生徒、保護者、教員間のコミュニケーションを密にし、生徒の基本的生活習慣の育成をおこなった。 ②-2 月10回以上の生徒を対象に、クラス主導で遅刻改善指導を実施した。 ③-1 バス通学状況の把握と改善指導を常時行い、バス会社や地域、家庭と連携した指導を実施に努めた。 ③-2 駐輪場の整理・整頓、年度当初の車体検査、校内外の交通安全教室を実施し、交通規範意識の向上に努めた。 ③-3 全てのバイク通学生徒は年1回以上2輪車実技安全講習を実施し、運転技能向上と、交通安全の規範意識を高めることを行った。	成果と課題 ① 毎月全校集会を実施し、学年、学校全体で共通意識を持ち連携を図りながら、効率的で公平な指導に努めることができた。 ②-1 本年度、朝のあいさつ運動や、日々の学校生活全般、農業教育をとおして生徒、保護者、教員間のコミュニケーションを密にし、生徒の基本的生活習慣の育成に努めることができた。 ②-2 10回以上の生徒を対象に、クラス主導で遅刻改善指導に努めることができた。 ③-1 バス通学状況の把握と改善指導を常時行い、バス会社や地域、家庭と連携した指導を実施に努めることができた。 ③-2 駐輪場の整理・整頓、年度当初の車体検査、校内外の交通安全教室を実施し、交通規範意識の向上に努めることができた。 ③-3 全てのバイク通学生徒は年2回の2輪車実技安全講習を実施し、運転技能向上と、交通安全の規範意識を高めることができた。	学校関係者の意見 一人一人の生徒を先生方がよく見てくれている。 社会に出て、きちんと自立するためには、基本的生活習慣の確立は必要不可欠である。遅刻1回でも社会では信用を失う大きな要素になり得るということを知ってほしい 常にマナーやモラルを学校生活の中で、十分に指導してくれていると思う。 地域と共にある学校であるということを生徒に理解させ、思いやりや譲り合いの精神を学ばせてほしい。 また、通学時に事故のないよう十分に気をつけてほしい。	○今後も継続して毎月全校集会等を通じて生活面での指導の向上が図られる。 ○今後も継続して毎月全校集会等から生活面での指導の向上が図られる。 ○学校全体での指導助言に努める。 ○今後も継続した指導に努める。 ○今後も継続した指導に努める。

総括評価表

重点課題 5
「特別活動の活性化と環境教育の推進」

重点目標	自己評価			学校関係者評価 総合評価(評定)	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評定 総合評価		
(全体レベル) 創造的な活動を通して集団、社会の一員としての自覚を深め、よりよい生活、環境づくりに主体的に取り組む意欲と実践力を育てる。 (下位組織レベル) ①生徒会活動・HR活動の活性化 ②部活動の充実・活性化 ③環境・エネルギー教育の充実	<u>評価指標</u> ①-1 生徒の特別活動満足度 90 %をめざす。 ①-2 朝のあいさつ運動を毎日実施し、平均参加者数 10 名をめざす。 ①-3 収穫祭における来場者数 500 名をめざす。 ①-4 学年集会を 5 回以上実施する。	<u>評価指標による達成度</u> ①-1 体育祭・文化祭・収穫祭の平均満足度 82.9 % ①-2 平均参加者は 8 名(12 月末まで)で、目標には届かなかった。 ①-3 収穫祭の来場者数 約 500 名催し物が多い時期で人が分散したと考えられる。 ①-4 クラス別・学年別集会を 6 回実施した。	評定 B C B A A B B A	<u>総合評価</u> 評定 B (所見) 学校行事の面においては、生徒会を中心に活動が円滑に行われ、満足度も一定の数値は得られている。しかし、すべて生徒会役員に依存している状況があるのではないかという懸念がある。あいさつ運動は、誰でも参加可能のボランティアであるので、各種委員会にも働きかけて参加を促したい。各種委員会の活動も、学年の縦割りの特性を生かし生徒主体の工夫した活動を模索していく必要がある。 部活動は、部員が一定数集まらないなど少人数校の宿命があるが、本校の中心部活であるライフル射撃部や民芸部は今年度も全国規模で活躍している。しかし他の部の活動内容も今後の課題となるだろう。 環境活動は引き続き取り組んでいかなければならないと考える。	B ○すべての行事の計画・立案・相談の迅速化 ○特活課と農業科、および各担当との連携 ○文化祭・収穫祭のあり方の模索 ○部活動の活性化 ○節電・ごみ分別・リサイクル活動の推進
	<u>活動計画</u> ①-1 本校の伝統となっている挨拶運動を引き続き実施する。参加者を増やすために、生徒会や生活委員会に強く呼びかけると共に、有志を募る活動を行う。 ①-2 生徒による新しい活動の企画・運営が図れるよう指導する。 ①-3 学校行事への主体的な参画が図れるよう指導する。 ②-1 自然科学部は、農業の授業とも絡ませ、より地域に出て行きやすくするために、全員参加の部活動の形態を取らせる。 ②-2 収穫祭等での本校との交流活動を盛んにする。 ③-1 毎日の清掃時には職員を配置し、ゴミの分別を徹底させる。 ③-2 生徒会や有志による校内清掃活動を月 1 回行う。	<u>活動計画の実施状況</u> ①-1 実施時間を遅らせたことでバス通学生などがあいさつ運動に参加しやすくなった。しかし、生徒会役員のみで、全校的な広がりは見られなかった。特に冬場は参加人数が少なかった。 ①-2 文化祭で生徒会によるダンスや劇を行い、大変盛り上げた。また、体育祭では新種目を企画し、好評を得た。 ①-3 学年別集会を 6 回実施し、主体的に取り組む環境を設定した。 ②-1 部活動と農業の授業を関連させることで起動力が生まれ、活動の幅が広がった。 ②-2 吹奏楽部とのコラボレーションや「雪花菜アイス」の販売を行い、好評を得た。また本校の文化祭にも生徒会が参加し、草花やゆこうの販売を行った。 ③-1 職員配置はできている。しかし、分別の徹底はできていない部分もあった。 ③-2 約週 1 回、生徒会役員による校外清掃活動を自主的に行っていた。	<u>成果と課題</u> ①-1 挨拶の励行と大きな声を出すという積極性が、マナーの向上やボランティアマインドの醸成に役立ち、生徒の自信や成長につながっている。参加者の増加が課題である。 ①-2 生徒自らが積極的に関わり楽しもうという意識が芽生えてきた。文化祭や体育祭の新しい企画は好評であったが、従来の内容の精選も必要である。 ①-3 学年で団結することにより、各々の理解が深まっているように感じた。 ②-1 イベントなどに出て行く場合は、参加者が固定されてくるということが課題ではあるが、他の生徒もパネル作りなどの裏方として活躍している。 ②-2 生徒同士の交流も盛んになってきていることは、たいへん喜ばしいことである。 ③-1 生徒会役員が約月 1 回、校外の清掃活動を行っており、それを目の当たりにした他の生徒のマナーの向上や節電・ごみ分別・リサイクルの意識の変革、向上を望みたい。	<u>学校関係者の意見</u> 生徒の元気なあいさつや活発な活動は、地域に活気と活力を与えてくれている。今後も引き続き継続してほしい。また、大きな声であいさつすることで自信につながっているのではないか。あいさつはその人の第一印象を決めるとも重要なものであると思う。あいさつ運動に参加したり、行事の企画を行ったりすることでスキルが養われ、今後の役に立つだろう。 社会に出る上でコミュニケーション能力は不可欠である。仲間作りを通してコミュニケーション能力をつけ他人の気持ちを推し量る心を育ててほしい。 エコに対する個々の取り組みや環境問題への参画意識を育ててほしい。	○生徒会以外の生徒が参加しやすい雰囲気醸成 ○「あいさつ」の意識付け ○文化祭のあり方の検討 ○体育祭の種目の内容についての検討 ○内容の充実 ○綿密な連携 ○本校や地域への積極的な働きかけ ○一人一人のマナーの向上 ○環境美化に関する意識の向上

総括評価表

重点課題 6

「学校の活性化、産業教育の振興と新しい学校づくり」

重点目標	自己評価			学校関係者評価 総合評価（評定）	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評定 総合評価		
(全体レベル) 基礎・基本の定着を図りこれまでの教育を創造し、地域に根ざした活力と魅力ある学校づくりを推進する。	<u>評価指標</u> ① 校外実習活動、交流学习の実施数を年間10回以上行う。 ② 年間を通して野菜・果樹・草花等を中心に農産物の生産と販売をおこなう。 ③ ホームページの更新を月平均5回以上おこなう。	<u>評価指標による達成度</u> ① 校外実習活動と交流学习の実施回数。(計16回) ② 年間を通して野菜、果樹、草花、加工品等を中心に農産物の生産と販売を行うことができた。生産収入も当初予算より増額となった。 ③ ホームページの更新については月平均(10回)	評定 A (所見) A 地域に根ざした学校として地域貢献、環境保全活動や新しい時代に対応した農業教育を実践してきた。今後も、地域に根ざした学校として活動していきたい。	A	
	<u>活動計画</u> ①-1 地元小・中学校・特別支援学校等で土作りから栽培管理等について農業支援をおこない交流を深める。(3回以上) ③ 広報活動の充実	<u>活動計画の実施状況</u> ①-1 ひのみね支援学校1回(花壇作り)、生比奈小学校5回(野菜の定植のための圃場整備やサツマイモ植えつけ・収穫、エダマメの種まき)、上勝中学校1回(草花の寄せ植え)、勝浦中学校1回(挿し木・ミニ観葉の育て方・無菌操作・ラッカセイの種まき)、加茂谷中学校1回(災害支援活動として花壇作り)(計9回) ①-2 勝浦病院(庭園管理・緑のカーテン栽培15回)、特別養護老人ホーム喜楽苑(花壇作り1回)、勝浦町老人会・勝浦役場(緑のカーテン栽培10回)(計26回) ①-3 ジンリョウユリやリンドウ等希少植物の苗の提供、植え付け、観察等増殖活動をおこなう。(4回以上) ①-4 棚田での田植え、稲刈り等保全活動をおこなう。(2回) ②-1 地元で期待されている草花や野菜等魅力ある農産物の生産を心掛ける。 ②-2 地元の農産物販売所「よってネ市」で野菜・果樹・草花等の農産物をあわせて年間6品目以上販売する。 ③-1 ホームページの内容を見直し、新しいデータに更新する。 ③-2 学校と保護者の連携を図るため各イベントに応じて情報の発信をおこない、説明責任を果たす。	<u>成果と課題</u> 日頃学習した農業に関する知識や技術をいかして様々な活動に取り組んできた。交流学习や学校間連携、地元公共施設との連携では、農業についての知識や技術を支援することで生徒自らの学習意欲が喚起され、自信となった。また、体験をとおしてコミュニケーション能力の向上や本校の取り組みについて理解してもらう良い機会となった。今後も生徒の自主性や主体性を育てるように取り組む必要がある。 バイオテクノロジーを活用し、絶滅危惧種や希少植物の保護、保全活動ができた。しかし、現地への移動方法や資材の購入等の予算捻出や授業時間の調整が課題である。地域に根ざした学校として、また、農業高校として生産から加工・販売に取り組んできた。そして、地域の農産物及びその販売状況についても学習することができた。 新鮮で市場価格よりも安く安全・安心で珍しい農産物が購入できると地域の方々からも好評であった。 施設・設備の老朽化における整備と有効利用、狭小な圃場の有効活用を更に検討していく必要がある。 ホームページの掲載により学校と地域社会を繋ぐ大きな接点となった。ホームページの掲載を更に勧めたい。	<u>学校関係者の意見</u> 人間が生きていく上で農業はなくてはならないものである。そのことを生徒も十分理解はしていると思うが、卒業後も本業にしていこうとする者は少ない。農業で十分生計が潤うと農業従事者がもっと増えるだろうに思う。本校の卒業生の中に地元で農業を営んだり起業家になっている者がたくさんいる。先輩たちに学び、実践してほしい。 勝浦校で培った知識や、技術と心が社会のために役立っていることを認識し、就職につなげてほしい。 今後も引き続き継続して、地域に根ざした学校づくりに努め、大いに宣伝して意欲のある生徒を獲得してほしい。 予算も軽減される中、限られた施設・設備を有効に利用することが重要となる。創意工夫しながら教育効果を高めてほしい。 様々な手段を利用して地域への情報発信をどんどんやってほしい。勝浦校の活動には、大きな期待を持っている。	○ 校外実習活動、交流学习の継続と実施。生徒の自主性・主体性の育成 ○ 校外での活動を行うための予算確保 ○ 施設・設備の整備と有効活用の推進 ○ 研究機関や農家等の見学や研修。そのための予算確保 ○ 情報発信と宣伝活動の充実